

『次世代の基礎医学研究を担うあなたへ』 第9回Clinical & Basic Research Forum

日時：令和元年7月20日（土） 17：00～19：00
会場：ホテルザマンハッタン 2階 「ルーナ」
千葉県千葉市美浜区ひび野2-10-1 TEL：043-275-1111

PROGRAM

*会終了後、情報交換会をご用意しております

【開会の辞】 千葉市立青葉病院 院長 山本 恭平 先生

【症例報告】
座長 千葉市立青葉病院 診療局長 血液内科 横田 朗 先生

「Clonal relationship in a patient with the histological transformation of Waldenström's
macroglobulinemia to diffuse large B cell lymphoma with MYD88L265P mutation」

千葉大学医学部附属病院 血液内科 日野 裕太郎 先生

【研究報告】
座長 千葉大学大学院医学研究院 分子病態解析学 教授 田中 知明 先生

「アレルギー性気道炎症の新規治療法開発に向けて」

千葉大学大学院医学研究院 内分泌代謝・血液・老年内科学 熊谷 仁 先生

【基調講演】
座長 国際医療福祉大学 糖尿病・代謝・内分泌内科学 主任教授 竹本 稔 先生

「新規非ステロイド型MRBエサキセレノンの有用性」

千葉大学大学院医学研究院 内分泌代謝・血液・老年内科学 講師 前澤 善朗 先生

【特別講演】
座長 千葉大学大学院医学研究院 細胞治療内科学 教授 横手 幸太郎 先生

『老化と寿命の仕組みを探る』

理化学研究所 生命機能科学研究センター センター長 西田 栄介 先生

【閉会の辞】 千葉大学大学院医学研究院 代謝生理学 教授 三木 隆司 先生

【西田 栄介 先生 ご略歴・ご紹介文】

西田栄介博士は、昭和51年に東京大学理学部生物化学科を卒業し、昭和56年に同博士課程を修了した（理学博士）。大学院生と助手(東大)の時に、微小管やアクチン等の細胞骨格の生化学的研究を行い、アクチン調節タンパク質コフィリンを発見した。その後、微小管結合タンパク質MAP2をin vitroの基質に用いることで、細胞増殖因子や発がんプロモーターの刺激で共通に活性化するセリン/スレオニンキナーゼ（MAPキナーゼ）を見出し、その活性化因子MAPキナーゼキナーゼ（MEK）を同定した。平成5年に京大に移り、MAPキナーゼならびに関連シグナル伝達経路の分子機構と生理機能についての解析を進め、発生の諸過程ならびに細胞増殖・分化の制御機構についての分子生物学的研究を行った。平成12、3年頃から、線虫を用いた寿命・老化研究を開始し、食餌制限による寿命延長の分子機構などについて先駆的研究を行っている。本会では、最近の寿命・老化研究の成果を中心に講演していただきます。